

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>○時間の有効活用および朝学習を中心とした始業前活動の充実。</p> <p>○授業時間の確保と授業内容の精選。</p> <p>○教科指導と関連付けた図書館活用計画の作成。</p>	<p>○授業の進め方や大切にしなければならぬ観点を統一して、全クラスで取り組む。</p> <p>○個々の児童の実態や能力に応じた授業展開の実施。</p>	<p>○指導と評価の一体化。個に対応した評価と指導計画の具体化を図る。</p> <p>○本校における評価の一体化を行い、明確な評価の実施と指導の反映を図る。</p>	<p>○校内研究の充実。</p> <p>○研究テーマに迫るための具体的な取組。</p> <p>○若手教員の効果的な育成および研修体制の充実。</p>	<p>○学校評価・関係者評価など、学校内外に向けた情報の開示。</p> <p>○地域・保護者・諸関係機関との緊密な連携。</p> <p>○地域への働きかけ。</p>
具 体 的 な 取 組				
<p>○朝学習<15分間>…時数外 火曜日…朝学習 水曜日…リーディングツリー、スピーチ 木曜日…朝学習、読書 金曜日…朝学習</p> <p>○授業時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の授業時間の達成目標を明示し、確認・調整する。毎学期、授業時間の達成状況に応じて時間割の編成を行う。 ・年間195回の給食の実施で、午後の授業カットがほとんどなくなった ・年間18回の土曜授業を実施することにより、授業時間の確保をすすめる。 <p>○図書館活用</p> <p>国語を中心に、年間計画の中で図書館活用を入れながら編成する。</p>	<p>○教科担任制の実施。 2年 音楽 3,4年 音楽、図工、理科、社会 5,6年 音楽、図工、理科、社会家庭科</p> <p>指導体制は中、高学年の担任および専科教諭、講師で編成。3,4年生を例に挙げれば、社会と理科を学級担任が教科担任として指導に当たる。</p> <p>○算数少人数指導。 <全学年の指導体制> 1年は担任と副担任 2年は担任と講師 3年は担任と少人数担当教諭 4～6年は担任と少人数担当教諭、講師。</p> <p>○授業のユニバーサルデザイン化を図る。</p>	<p>○評価の一体化 教科担任制による、各教科担当の教師や講師が、それぞれの担当教科や担当単元の評価を行う。通知表の作成に当たっては、各担当教師が責任をもってPCにより情報提供する。複数の教員が1人の児童の評価にかかわる。</p> <p>○各時間ごとの自己評価シートの活用、振り返りにより、次時の指導に生かす工夫。</p> <p>○教師による毎時間の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座席表などへの記入による評価の共有化。 ・少人数指導における個人カルテによる単元ごとの評価。 	<p>○校内研究 テーマ「めあてに向かってチャレンジする児童の育成～授業のユニバーサルデザイン化を通して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの「焦点化」、教材の「視覚化」、学習の「共有化」、「個に応じた支援」を行う授業づくり ・児童が自己肯定感を高め、互いの特性を認め合える学級づくり ・児童が学習や活動に集中できる学習環境を整備し、特別支援教室・学習支援員・外部機関等との連携を図った環境づくり <p>○学期中、長期休業中における研修会（特別支援、体育、理科、ICT等）</p> <p>○学力調査の結果を各教科担当が分析して説明。具体的な手立てを全教員で検討、共有。</p> <p>○主任教諭による若手教員の育成</p>	<p>○学校での活動の様子や学校からのメッセージを掲載した学校便りの配布。</p> <p>○地域、近隣幼稚園・保育園への学校公開の案内等の配布。学校説明会の実施。</p> <p>○HPの充実</p> <p>○学校の顔としての中央玄関から校長室前廊下の掲示板の充実。1ヶ月に1度の確実な更新を行う。</p> <p>○ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア ・学習ボランティア <p>○三田アカデミーとして、近隣の幼小中、4校1園での授業交流や児童会・生徒会活動を推進する。</p>
成 果 と 課 題				
<p>○授業カットの回数が減り、授業時間の確保が実現できている。</p> <p>○授業時数の達成目標を明示していることにより、どの教科も計画的に指導を行うことができている。</p> <p>○朝学習を充実させ、反復学習などを通して、基礎学力の定着を図ることができている。</p> <p>△H28年度に向け、授業時数をさらに確保する対応を考える。</p>	<p>○児童の意欲が高まり、学力が向上している。</p> <p>○担当教師の専門性を発揮し、創意工夫した授業展開をしている。</p> <p>○児童のよい変容を保護者が認め、教科担任制や算数少人数指導を支持している。</p> <p>△個人差に応じ、基準に達しない児童への指導の工夫。</p>	<p>○PCによる評価の共有化は、全職員が実施し、1人の児童を4～9人の教員が評価している。講師からの評価資料も生かし、多くの目で、評価している。</p> <p>△評価基準の明確化。 毎時間ごとの評価と単元ごとの評価の組み合わせ。</p> <p>△学力向上に対し、児童のつまづきを把握した上で課題意識をもって授業する。</p>	<p>○これまでの研究の成果をもとに、UD化を他教科、日常の活動に広げている。</p> <p>○つまづきを予想し、支援の三段構えが指導案作成に生かされている。</p> <p>○若手教員の確実な成長。</p> <p>○みたルーム、支援員との連携</p> <p>△「①参加 ②理解」から「③習得 ④活用」へ進めていく。</p> <p>△焦点化する指導事項の選定と場面の設定。</p>	<p>○学校評価においてHPの充実について、多くの保護者が満足という評価をしている。そのほかの情報提供についてもおおむね地域や保護者の関心を集めている。</p> <p>○地域行事へ積極的に参加している。</p> <p>△三田アカデミーとしての特徴ある活動をさらに充実させる。</p>